

## ごあいさつ

令和7年は、太平洋戦争の終結から80年の節目を迎えます。戦時下の八街は、下志津陸軍飛行学校八街分教所(通称・八街飛行場)が置かれ、当時最新鋭の偵察機「百式司令部偵察機」が配備されるなど、首都防衛の重要な拠点の一つでした。そのため、八街は数度にわたり米軍機による空襲を受けており、米軍の「Aircraft Action Report(航空機戦闘報告書)」にも記録されています。

また、市内には今日でも八街飛行場の格納庫基礎や境界石杭など、さまざまな戦争遺跡が残されており、市内から機銃掃射の葉莖もしばしば発見されます。

本企画展では、これらの貴重な実物資料や記録物、そのほか市内に残る戦争遺跡をとおして、私たちが忘れてはならない「戦争と八街」の記憶をたどります。本展が、郷土の歴史への理解を深め、改めて平和について考える一助となれば幸いです。

最後に、本企画展の開催にあたり、貴重な資料や写真のご寄贈・ご提供をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



市内で見つかった米軍機の葉莖



終戦時の八街飛行場

- 交通**
- ★JR八街駅から徒歩20分
  - ★JR八街駅からバスの場合▶ふれあいバス(西コース)八街駅→中央公民館下車

